

丸山忠男議員



● 勝山市の観光に対する取り組みについて ● 小中学校の再編問題について

そのほかの質問
・今年の冬の除雪対策について
・ふるさと納税について

一般質問

問 ①山岸市長の考える勝山市の観光行政について市長の見解を伺う。
②勝山市の観光協会が10月末に解散する方針と聞いているが、解散後の同協会の方向性について理事者の見解を伺う。

答 ①勝山市観光まちづくり株式会社は本年6月に設立された。現在、勝山市観光まちづくり株式会社は旧料亭花月楼を改修し、食と伝統文化の拠点施設とすることによってまちなかへの誘客を図り、また長尾山総合公園内に便益施設（仮称）ジオターミナルを設けて市内全体の周遊観光案内や飲食物販に向けた準備を進めている。

勝山市観光まちづくり株式会社が、今後、道の駅での地域振興施設に何らかの形でかわり、三つの観光拠点を一元的に管理運営することで、勝山市全体の観光事業者の底上げを図り観光の産業化を強力に推進していく。勝山市としても、必要な助言、指導、共働、支援などをしていくことは当然と考える。

②共に勝山市の観光振興を担っていただく観光協会から支援の要請があれば

可能な限り検討したい。これまで勝山市、商工会議所、観光協会が行ってきた観光事業を勝山市観光まちづくり株式会社一本化していくなかで、観光協会については、勝山市観光まちづくり株式会社の一翼を担っていただけと期待している。

問 去る9月2日、福井新聞と日刊県民福井の両紙が大野市の小中学校再編案について取り上げているが、これを読んだ大野市民はもとより勝山市民の多くがあまりにも大胆な再編案であったために驚いたことと思う。勝山市にとっても避けては通れないことと思うが、この問題について梅田教育長の見解を伺う。

答 これまでの様々な意見交換を踏まえ、平成30年度に検討委員会を立ち上げて、翌31年度には中学校の再編方針を決定することになっているが、小学校については保護者や地域住民の意思を尊重し対応するとしており、現時点においては具体的な再編計画を進める段階に至っていない。

今後、勝山市における望ましい学校のあり方について研究していきたい。

竹内和順議員



● 勝山市市民憲章について ● 観光振興について

そのほかの質問
・第3次勝山市地域福祉計画について

一般質問

問 勝山市市民一人一人が互いに横のつながりをもって生活していくことこそが求められることと考える。それを理念としているのが市民憲章。勝山市市民憲章の制定について市の考えを伺う。

答 市民憲章とは、一つの自治体に住む住民が、互いに横のつながりをもって、より良い生活を築こうという考えを表わすものであり、さらには、その市の成り立ち、その歴史に思いを馳せ、そこで培われてきた生活・文化に市民として誇りを持つこと、また、その文化遺産を尊重し、未来へ継承するということの市民の合意や約束、願いを表したものと考えられている。

この点では「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」の理念にも近いものがあるが、地域住民が連携し、地域環境を改善し、より住みよい地域社会をつくるための指針として、新たに勝山市市民憲章の制定を検討することは意義のあることと考える。

将来、次の勝山市総合計画を策定するにあたっては、ご提案の趣旨も踏まえ、市民憲章について、幅広く議論したい。

問 勝山市が観光で経済を活性化しようとするために、特にサービスマインフラは大切と考える。市の観光インフラについての見解を伺う。

答 勝山市の観光の産業化を目指すには、宿泊観光の増加とシニア層呼び込みによる平日観光の増加が大切。そのためには、観光客の満足度を高め「かつやまファン」となっていたり、観光客を受け入れる勝山市の観光関連事業者全体のおもてなしの姿勢が大切であると考える。

市民生活に必要なインフラとして整備されたものは、かなり進んでいるが、Wi-Fi環境、駐車場、多言語案内表示、クレジットカード決済といった観光客を対象としたソフトインフラをはじめ、多言語対応のメニューや従業員の配置、周辺観光情報の整理と受発信などについては、これから対応が必要。

今後は、商工会議所や勝山市観光まちづくり株式会社、各観光地を担っている企業や団体、小売店などと連携し、観光客が満足していただけるよう継続的に取り組む。